

ベトナムと TPP

岡山県ベトナムビジネスサポートデスク (I-GLOCAL) 浅野大志

1. TPP とは

2006年5月にブルネイ、チリ、ニュージーランド、シンガポールの4か国で発効した TPP (環太平洋戦略的経済連携協定: Trans-Pacific Strategic Economic Partnership Agreement) は、原則関税撤廃を目指す FTA であり、物品のみならず、サービス貿易・政府調達・知的財産権など幅広い分野を対象としている。現在、オーストラリア、ペルー、アメリカ等も交渉に参加している。これら交渉参加国の中で、一人当たり GDP が最も小さく、さらに平均関税率が最も高いのがベトナムである。つまり、TPP 交渉参加国の中で、ベトナムが最も経済発展段階が低く、産業が保護されており、TPP の影響を最も大きく受ける国の一つということである。

表1 TPP 交渉参加国と日本の一人当たり GDP と平均関税率¹

地域	国名	一人当たり GDP (米ドル)	平均関税率 (%)
南北アメリカ	アメリカ	47,284	3.5
	チリ	11,828	6
	ペルー	5,172	5.5
オセアニア	オーストラリア	55,590	3.5
	ニュージーランド	32,145	2.1
東南アジア	シンガポール	43,117	0.0
	ブルネイ	31,239	2.5
	マレーシア	8,423	8.4
	ベトナム	1,174	10.9
	日本	42,820	4.9

2. ベトナムにおける TPP にまつわる議論

日本では TPP に対し賛否両論が渦巻き、連日新聞、テレビ等でその是非について議論が交わされているが、ベトナムでは全体 (政界・産業界・マスコミ・学者等) として TPP に対し非常に好意的な姿勢を示している。ベトナム商工会議所

(VCCI) が企業・協会・専門家・弁護士・大学・講師等を対象として実施したアンケート (2010年11月4日実施) によると、「ベトナムは TPP 交渉に参加すべきである」といった意見が 96.94% に上ったという²。その理由としては、世界第一の経済大国である米国市場が開放されること、中国との間で発生している貿易赤字解消が期待されること等があげられる。

¹ 岡江添史 (2011) 「ベトナム TPP 参加表明の歴史的背景」農林水産省農林水産政策研究所『平成 22 年度カントリーレポート 韓国・ベトナム』

² Viet Nam Net 「ベトナム国内の TPP への反応をめぐって」 (2010年11月30日、ベトナム語)

<http://vef.vn/2010-11-30-tpp-cuoc-choi-chu-dong-cua-viet-nam-trong-hoi-nhap>

3. ベトナムにおける具体的な TPP 賛成論

以下でベトナムの各担当者がどのような理由をもって TPP に賛成しているかを見ていく。

①WTO との比較

首相の経済諮問委員会委員の **Pham Chi Lan** によると、TPP によってメンバー国（アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール等）との貿易、投資、教育、技術といった点で関係が拡大・深化し、ベトナムの今後の発展の原動力になるという。その際、WTO は一方的に開放政策が適用され、加盟後に規制内容の提案ができたのに対し、TPP のスキームにおいて、ベトナムはメンバー国と対等に交渉することが可能になるとのこと。

②機会の創出、競争の強化

1999 年企業法の作成メンバーであり弁護士でもある **Tran Huu Huynh** によると、TPP スキームは、ベトナム市場において外国製品を溢れさせてしまう可能性があるが、ベトナム企業は価格競争力をもっており、ベトナム企業は TPP を競争力強化の機会として受け止めるべきだという。サービスや投資の領域の「深い」開放は、優れた投資家を呼び寄せ、その協力のもとベトナム企業の効率性を改善し、結果として外国製品との競争にも負けないベトナム企業が成長し、貿易赤字を削減することも可能だという。

③政府調達の見点

計画投資省入札管理局長である **Le Vang Tang** によると、TPP 加盟によって 10～15% の政府調達案件への入札権を獲得することができ、ベトナム企業もその競争に参加し低価格により勝機があるという。また、TPP から得られる利益は WTO よりもはるかに大きいとも発言。

TPP に対しては上記のような賛成意見が多勢を占めており **Truong Tan Sang** 国家主席といった政府のトップレベルも「ドイモイ（刷新）とより広く深く国際参入する決意をもって、ベトナムは TPP 交渉に積極的に参加し、TPP の多様性、協力体制に貢献していく」³と発言するほどである。

4. ベトナムで議論される TPP の問題点

ただし TPP 加入の問題点がまったく論じられていないわけではなく、「恩恵と問題点を比較して、総じて恩恵の方が勝る」と考えているようである。以下に、ベトナムにおいて論じられている TPP の問題点を列挙する。

- ・ 国内市場における外国製品・サービスとの競争激化
- ・ 高い環境基準の設定
- ・ 知的財産の領域の開放の不透明性
- ・ 法制度の整備

³ Voice of Vietnam online 「ベトナムは TPP に貢献し続ける」（2011 年 11 月 31 日、ベトナム語）

<http://vov.vn/Home/Viet-Nam-se-tiep-tuc-dong-gop-tich-cuc-vao-TPP/201111/191452.vov>

また、交渉に対し、先進国等と対等な交渉がどれほど可能かといった声もあがっている。

しかし、前述したとおりベトナムは総じて TPP に友好的であり、上記の問題点が今後どの程度議論され、対策が講じられるかは明らかではない。外国投資依存の経済は 1997 年のアジア通貨危機、2008 年以降の世界金融危機等でその脆弱さが露見しており、今後、外国投資を誘致しつつ、国内企業の競争力強化をいかに図っていくかがポイントとなるだろう。

参考文献（日本語）

- ・岡江添史（2011）「ベトナム TPP 参加表明の歴史的背景」
- ・農林水産省農林水産政策研究所『平成 22 年度カントリーレポート 韓国・ベトナム』

参考文献（ベトナム語）

- ・Vietnam Economic News 「TPP 交渉によってベトナムが得るもの、失うもの」
(2010 年 10 月 5 日)
<http://www.baomoi.com/Home/KinhTe/www.ven.vn/Viet-Nam-tham-gia-dam-phan-TPP-la-can-thiet/5141072.epi>
- ・Viet Nam Net 「ベトナム国内の TPP への反応をめぐって」(2010 年 11 月 30 日)
<http://vef.vn/2010-11-30-tpc-choi-chu-dong-cua-viet-nam-trong-hoi-nhap>
- ・Sai Gon Tiep Thi online 「環太平洋自由経済」(2011 年 11 月 22 日)
http://webcache.googleusercontent.com/search?q=cache:yJXcUx_qmkJ:www.sgtt.com.vn/Thoi-su/Quoc-te/132859/Thuong-mai-tu-do-xuyen-Thai-Binh-Duong.html+H%C3%A3ng+lu%E1%BA%ADt+STEPTOE+%26+JOHNSON+LLP&cd=9&hl=ja&ct=clnk&gl=jp
- ・Voice of Vietnam online 「ベトナムは TPP に貢献し続ける」(2011 年 11 月 31 日)
<http://vov.vn/Home/Viet-Nam-se-tiep-tuc-dong-gop-tich-cuc-vao-TPP/201111/191452.vov>